

平成24年8月度定例自然観察会実施報告書

六甲山自然案内人の会

実施日 : 平成24年8月11日 (土)
担当班 : 4班
コース : 新神戸駅～布引の滝～五本松堰堤～市ヶ原～修法ヶ原
参加人数 : ビジター10名 会員16名 計26名
テーマ : 生田川の生き物と地質を学ぶ

タイムスケジュール

9:10 ① 新神戸駅下 生田川
9:40 ② 砂子橋 ③ 公園
9:50 ④ 雌滝 ⑤ 鼓滝
10:10 ⑥ 雄滝 ⑦ 雄滝茶屋前
10:30 ⑧ 見晴らし展望台 (トイレ休憩)
11:15 ⑨ 五本松堰堤 (通称: 布引ダム) ⑩ 布引断層破砕帯
12:15 ⑪ 市ヶ原 (昼食)
12:50 ⑫ 蛇谷
13:55 ⑬ 修法ヶ原 (解散)

ポイントでの観察・解説

① 諏訪山断層 発見と新神戸駅の設計変更について、新幹線駅舎工事は活断層の真上にあるにもかかわらず位置を変更できないため構造を3分割し地震の影響を少なくする工夫がされている。断層の海側は大阪層群の上に沖積層、北側は布引花崗閃緑岩、断層面には破砕帯と呼ばれる小さな礫、粘土等を含んだ層がある。

断層と河川の関係 生田川は断層面の破砕帯を侵食しながら流れている。

生田川は六甲山脈を縦断する唯一の河川

生田川の歴史 処女塚、求女塚の伝説について、明治4年の河川付け替えと新生田川、加納宗七と加納町について、支流の苧川 (オガワ) と苧麻 (カラムシ) について

生田川の生き物 (下見で見たサワガニ、フタツメカワゲラ、モンキマメゲンゴロウ、スジエビ、カワニナ、カワヨシノボリ、モクズガニ等を写真で説明しました)

② 断層により90度曲がる川、砂子橋の上流からまっすぐ流れてきた生田川が橋の下流で直角に右方向に曲がり滝となって落ちている。

砂子橋は水道橋で国の重要文化財に指定されている布引水源地水道施設の一部で、現在も上流部分で取水した水を奥平野浄水場に送っている。

③ 公園の西側部分では鼓滝からほぼまっすぐの流れが左に直角に曲がっている。東西だけではなく南北にも断層がたくさんある。

④ 雌滝には取水堰堤があり下部には排水管など、上部には石組みの丸屋根が特徴の取水施設がある。観瀑橋の下にはイワタバコ (花)

- ⑤ 鼓滝上部にも取水施設があり鉄板の蓋が確認できる。
この付近の岩場にはツメレンゲ、マツバラシ、イワヒバ、など岩壁に着生する植物がみられるが当日は雨が少ない日が続いたため葉が丸くカールしていた。
ウラジロウツギ、ノハカタカラクサ（野博多唐草 別名トキワツユクサ）
- ⑥ 雄滝、夫婦滝下の花壇にフッキソウ、ウラシマソウ（緑の実）、下見ではここからの登りにモクズガニを発見。
- ⑦ 甌穴、滝の上部の窪みに上流から流れてきた岩が引っ掛かり、水の力で回転しながら岩盤を削って5 m以上の深さがある穴をつくった。中にあった石を取り出し祀ってある。
登りの岩場にはマメツタ、ヒトツバ、ノキシノブ（いずれもウラボシ科）といった着生植物やキハギ、フジなどが見られた。
- ⑧ 雨の予報で実施が危ぶまれたがここまで殆ど雨が降らず、だんだんと明るくなってきてかなり蒸し暑い日となった。
岩場にはツメレンゲ、テイカカズラ（実がかなり大きくなってきている）
猿のかづら橋ではムラサキシキブ、ムクノキ（ざらざらの葉、実）、ミツデウラボシ
谷川橋周辺では（カニクサ、フユザンショウ、マユミ、ミツバベンケイソウ）
五本松かくれ滝では（シナサワグルミ、オニグルミ、ノグルミのクルミ3兄弟、ナルコユリ）
- ⑨ 五本松堰堤（通称布引ダム）は国の重要文化財、明治33年に完成した日本で最初の水道専用ダム。高さ約33 m、幅約103 m
センニンソウ（花） クロアゲハ、アオスジアゲハ、クチベニマイマイ
- ⑩ 布引断層の露頭は植物が生い茂り破碎帯の溝が確認できるのみであった。振り返り後方湖面の奥には断層の続きの谷筋が見えている。
イケマ、アキノタムラソウ、ヒメコウゾ、ホタルブクロ、神社のヒイラギ（葉の鋸歯の変化）、クマノミズキ、カゴノキ（赤い実）、オオケマイマイ
締切堰堤、分水隧道、水道施設の最上部の説明、
- ⑪ 市ヶ原で昼食後川の生き物調べ ニンギョウトビケラ、ヘビトンボ、カジカガエル
- ⑫ 蛇谷への道では コマツナギ（キダチ）ネムノキ、ヒヨドリバナ、オトコエシ、シュウブソウ、ムラサキシキブ、ウマノミツバ（セリ科のヒツキムシ）、エビヅル、ヤマウコギ、トウバナ、メハジキ、ヤママユガの繭
- ⑬ 修法ヶ原下の池畔ではカツラ（良い匂い）、クリ（まだ青い実）
- ⑭ 修法ヶ原池畔ではアカマツに寄生したマツグミ（ヤドリギ科）の花が足元いっぱい落ちていました。

